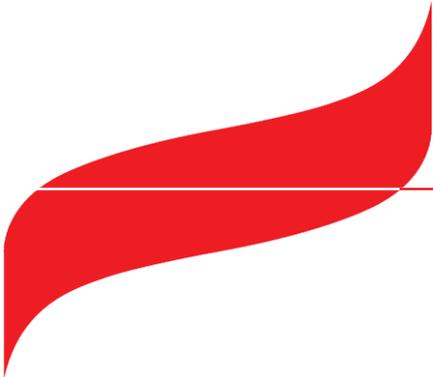


2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月19日
シダックス株式会社
(東証スタンダード：4837)



シダックスグループ連結決算概要

決算ハイライト

2期連続で大幅な増益を達成

コロナ禍において最大の流行となった第7波及び第8波や原材料価格高騰の影響を受けるなど、依然として厳しい経営環境の中、これまで実施してきた様々な経営改革の成果も表れ、売上高は堅調な増収となり、営業利益は2期連続で大幅な増益を達成

中期経営計画初年度について

当期を初年度とする3カ年の中期経営計画（Re-Growth 2025）の初年度の結果は、事業部門により好不調が見られたものの、新規契約の受注目標もクリアするなど計画以上の進捗で着地

コア3事業の成長

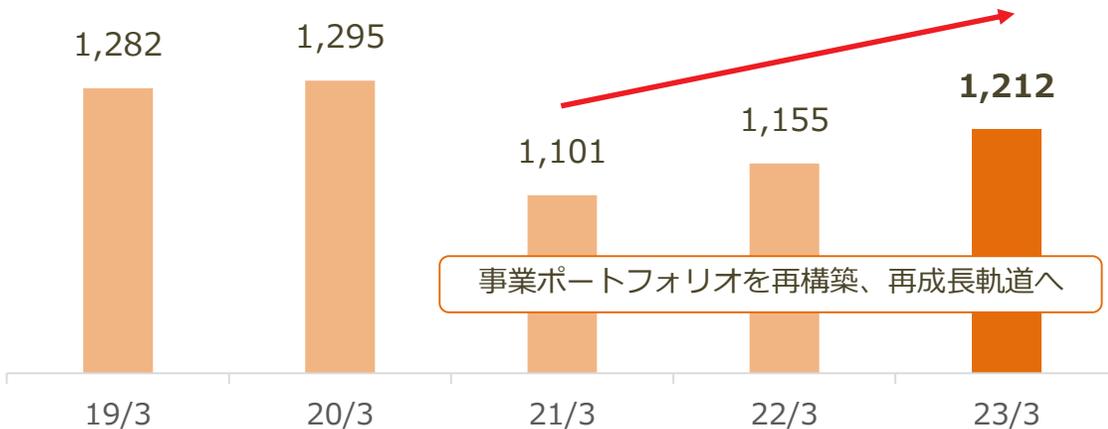
確立した事業ポートフォリオ「フードサービス事業」「車両運行サービス事業」「社会サービス事業」のコア3事業は、体制強化や事業間連携の加速など事業拡大に向けての成長を続け、特に業績面においては「社会サービス事業」が大躍進

連結決算概要

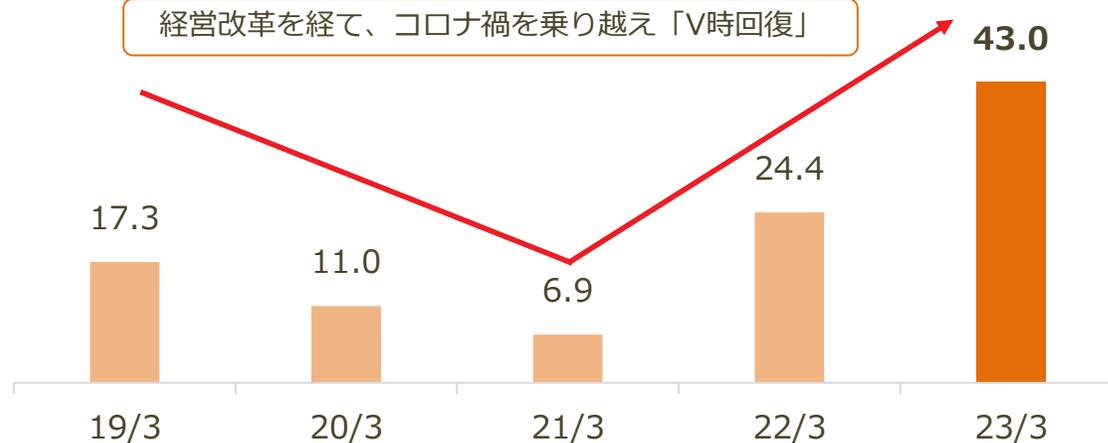
(百万円)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (2/10予想)	23年3月期 (実績)	前期比	増減	要因
売上高	115,525	120,000	121,220	104.9%	+5,694	社会サービス +5,887、車両運行サービス +1,621 その他 ▲1,686 (BtoC事業の撤退等)
売上総利益	14,752		16,644	112.8%	+1,892	[原価率] 前期：87.2% 当期：86.3% → 0.96pt 改善
販管費	12,310		12,343	100.3%	+33	
営業利益	2,442	3,900	4,301	176.1%	+1,858	社会サービス +854、その他 +723 (BtoC事業の撤退等) 車両運行サービス +329、フードサービス ▲366
営業外収益	235		312	132.6%	+76	
営業外費用	386		426	110.4%	+40	シローン手数料等の雑損失 +133
経常利益	2,292	3,700	4,188	182.7%	+1,895	
特別利益	3,657		320	8.8%	▲3,337	前期：固定資産売却益 3,408
特別損失	1,478		407	27.6%	▲1,071	前期：減損損失 1,331
税前利益	4,471		4,101	91.7%	▲370	
法人税等	381		283	74.3%	▲98	繰越欠損金あり
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,089	3,100	3,817	93.3%	▲272	

連結業績推移

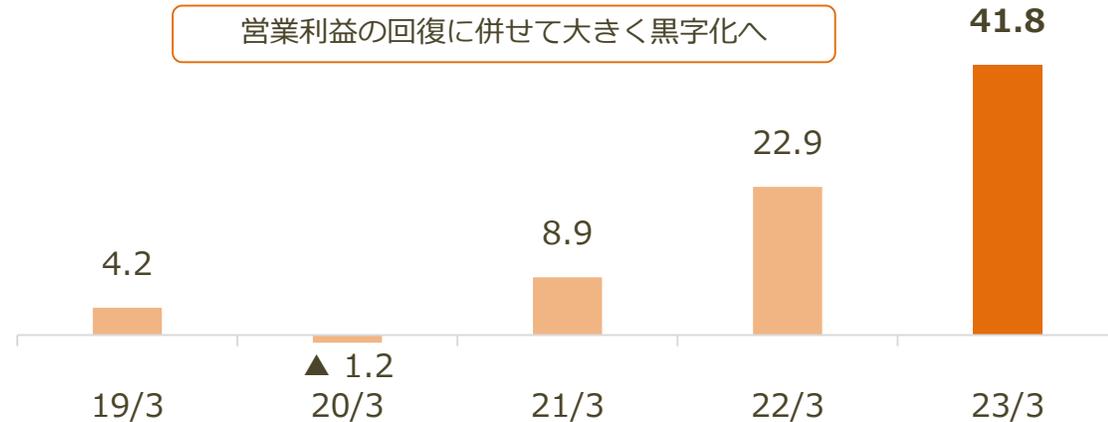
売上高 (億円)



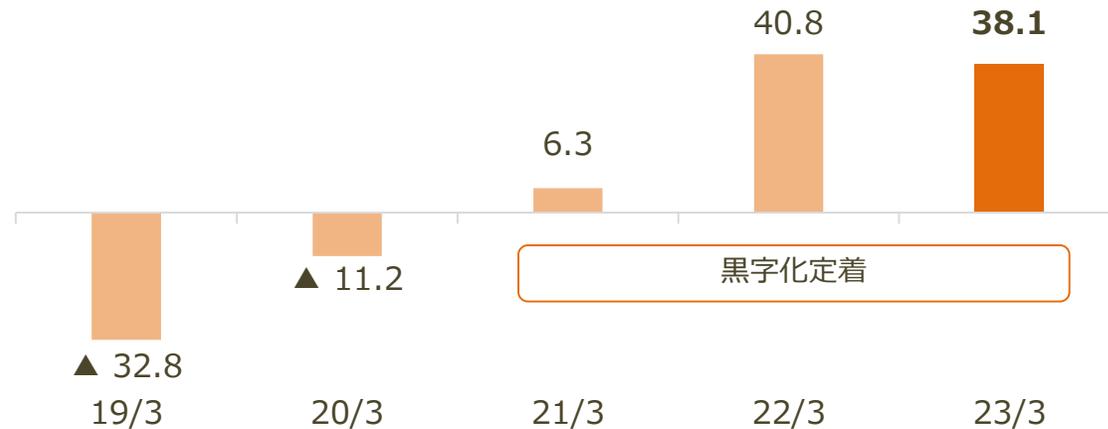
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



親会社に帰属する当期純利益 (億円)



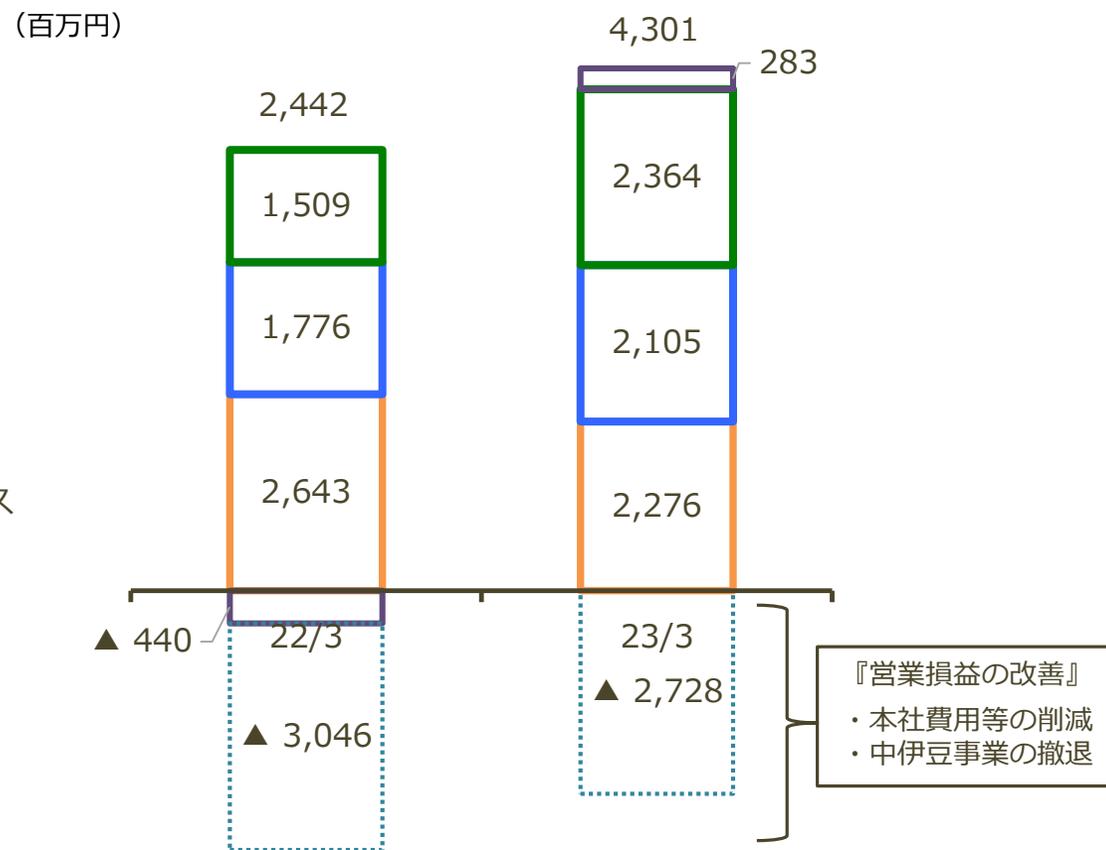
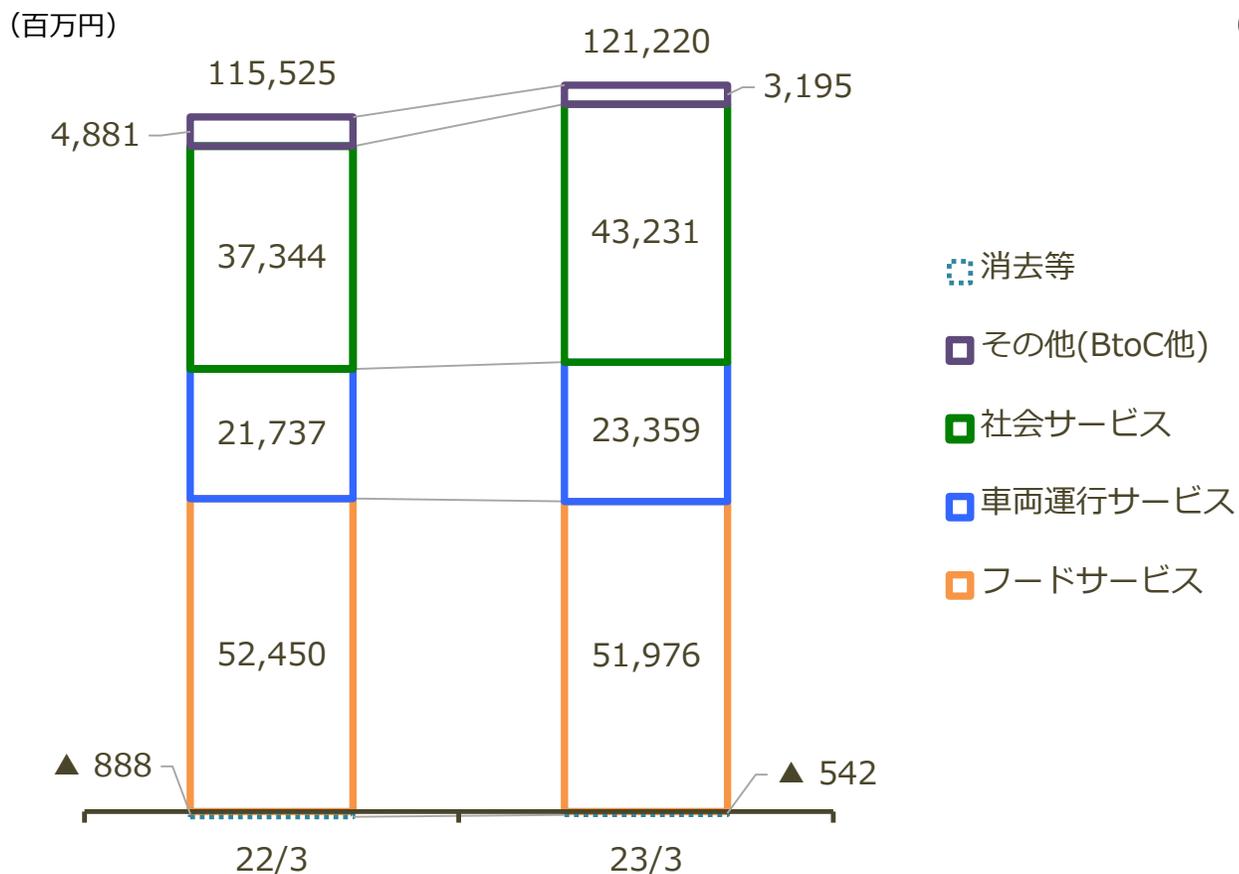
売上高・営業利益 前期比較

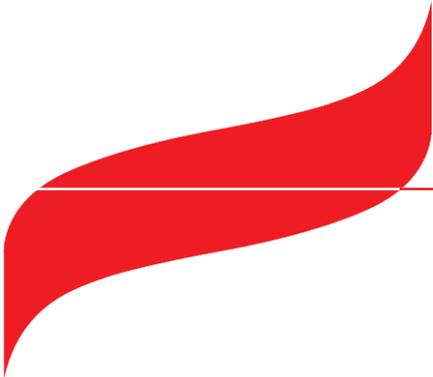
■ 売上高

- ・ 社会サービスが大きく躍進し、**5,694百万円の増収**
- ・ 「その他」の減収は、BtoC事業の撤退等によるもの

■ 営業利益

- ・ 第7-8波の影響を受けたフードサービスを車両運行サービスおよび社会サービスでカバーし、**1,858百万円の増益**
- ・ 経営改革の効果による営業利益率の改善 2.1% → **3.5%**





シダックスグループの展望

今後の経営方針

社会課題 解決企業

様々な社会課題をコア事業のサービス提供で解決し、経済/社会的価値を創造していく「人と人の中にあるサービス企業」として、サステナブルな社会インフラとして不可欠な存在へ

コア事業 可能性探求

食・移動・自治体サービスなど500種におよぶ事業を展開してきた経験を活かし、新しい時代の循環型社会に生じるビジネス機会を捉え、コア事業の更なる可能性を探求

人財戦略 再構築

SDGs経営方針に則る人財エンゲージメントへの積極的投資を図り、人財戦略を再構築土台となる人事制度を20年ぶりに改訂し、新人事制度を導入

ガバナンス 強化

TOBを経てオイシックス社の経営参画のもと、新たな経営体制によるガバナンス体制を強化
取締役会直下に「ガバナンス改善プロジェクトチーム」を設置予定

フードサービス関連事業の協業について

- フード関連事業の協業を検討する「特別委員会」は、検討の前提となる状況が整うまで一旦保留に
オイシックス社と資本異動を伴わない協業については、**年内に事業戦略（協業内容）を発表予定**

オイシックス社との協業の進捗状況

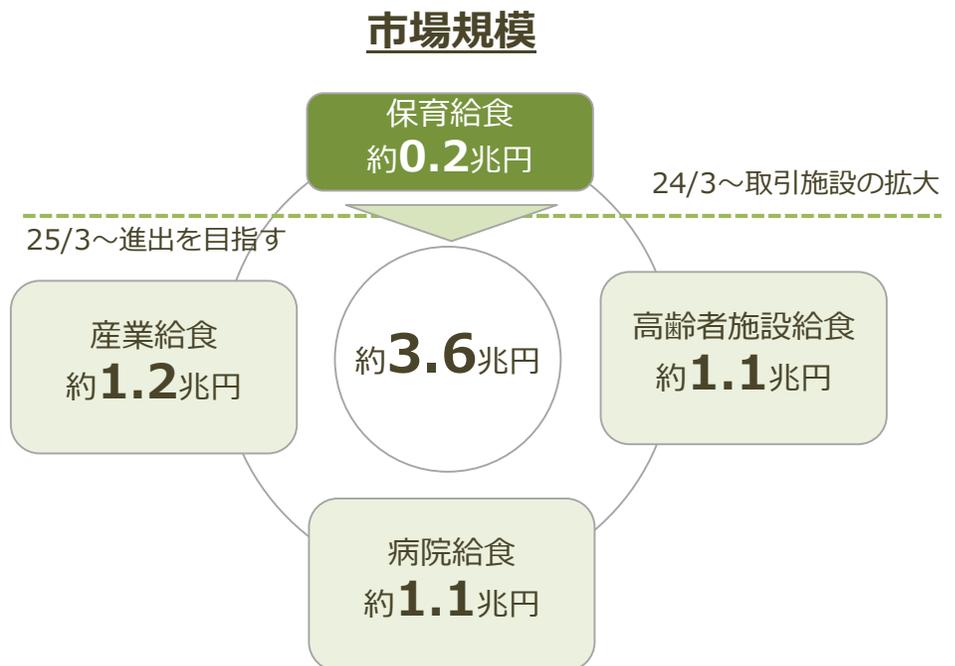
Oisix ra daichi ※ SHIDAX

テストマーケティング開始

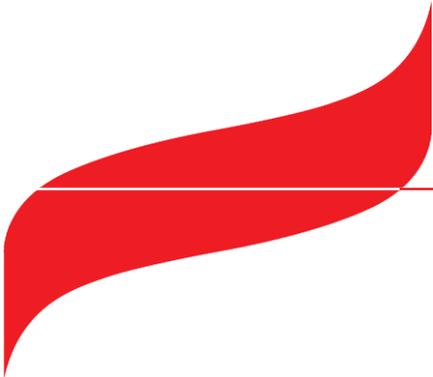
- 受託運営する保育施設で、テストマーケティングを開始
- 保育施設での業務用ミールキット活用モデルを構築し、取引施設数の拡大を狙う

提供市場の拡大準備

- 病院や高齢者施設等の施設特性の理解を加速
- 保育以外の給食市場への早期進出を目指す



※矢野経済研究所調べ



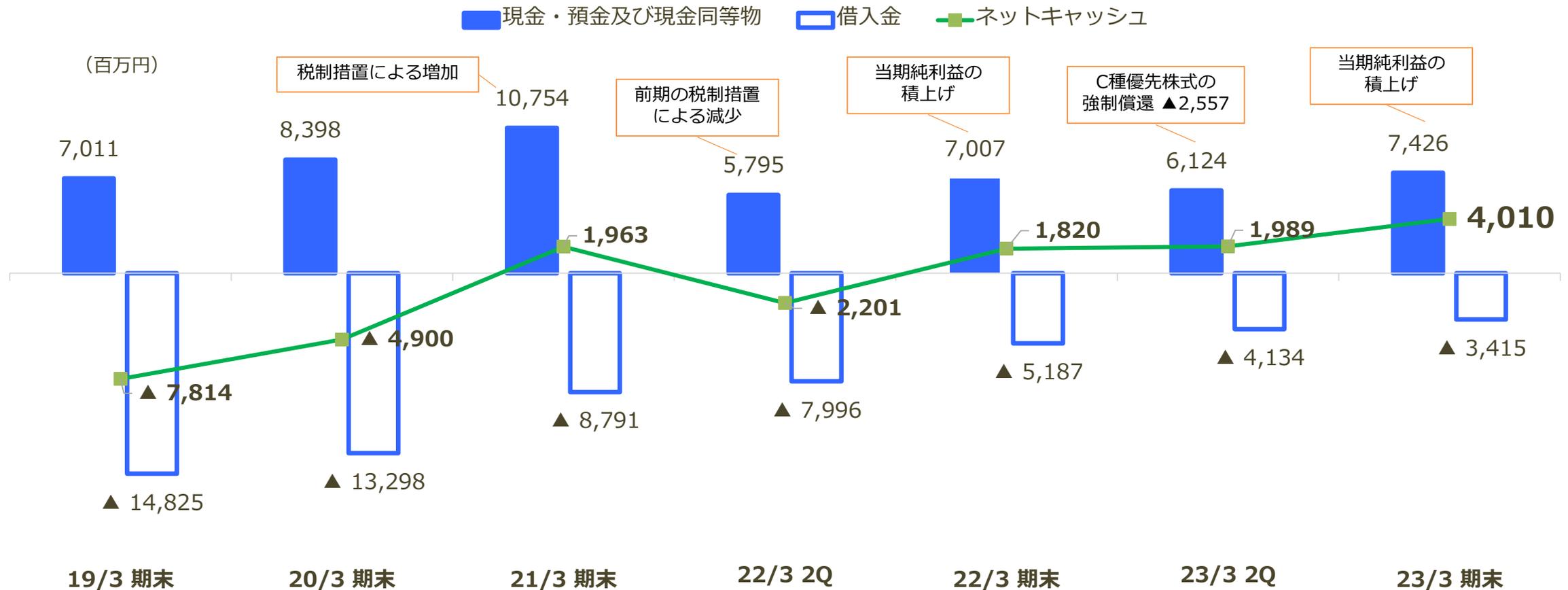
財務状況

B/Sサマリ 関連指標

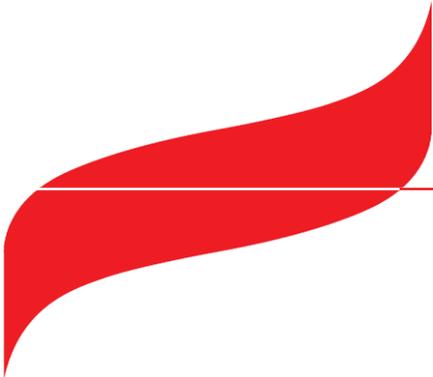
(百万円)	22/3 期末	23/3 期末	増減
資産	33,159	33,195	+ 35
負債	21,787	20,969	▲817
純資産	11,371	12,225	+ 853
有利子負債残高	5,187	3,415	▲1,772
ネット有利子負債	▲1,820	▲4,010	▲2,190
D/Eレシオ (倍)	0.46	0.28	▲0.18
ネットD/Eレシオ (倍)	▲0.16	▲0.33	▲0.17
現金及び現金同等物残高	7,007	7,426	+ 418
自己資本比率 (%)	34.3	36.8	+ 2.5pt

有利子負債は着実に減少し、4,010百万円のネットキャッシュに

キャッシュポジション



リファイナンスを実施、より安定的なキャッシュポジションに



事業セグメント決算概要

事業セグメント 決算サマリ

セグメント	(百万円)	22年3月期	23年3月期	前期比	増減
フードサービス	売上高	52,450	51,976	99.1%	▲473
	営業利益	2,643	2,276	86.1%	▲366
車両運行サービス	売上高	21,737	23,359	107.5%	+1,621
	営業利益	1,776	2,105	118.5%	+329
社会サービス	売上高	37,344	43,231	115.8%	+5,887
	営業利益	1,509	2,364	156.6%	+854
その他	売上高	4,881	3,195	65.5%	▲1,686
	営業利益	▲440	283	—	+723
消去・全社費用	売上高	▲888	▲542	—	+345
	営業利益	▲3,046	▲2,728	—	+317
連結計	売上高	115,525	121,220	104.9%	+5,694
	営業利益	2,442	4,301	176.1%	+1,858

フードサービス事業

- 売上高は4Qでやや持ち直し前期水準で着地も、第7-8波の影響による労務コストの増加等により、営業利益は利益率低下に伴い**3.6億円の減益**に

(百万円)	22年3月期	23年3月期	前期比	増減
売上高	52,450	51,976	99.1%	▲473
(コントラクト)	20,595	20,338	98.8%	▲257
(メディカル)	30,815	30,977	100.5%	+161
(その他)	1,038	660	63.6%	▲378
営業利益	2,643	2,276	86.1%	▲366
利益率 (%)	5.0%	4.4%	—	▲0.6pt

主なプラス/マイナス要因

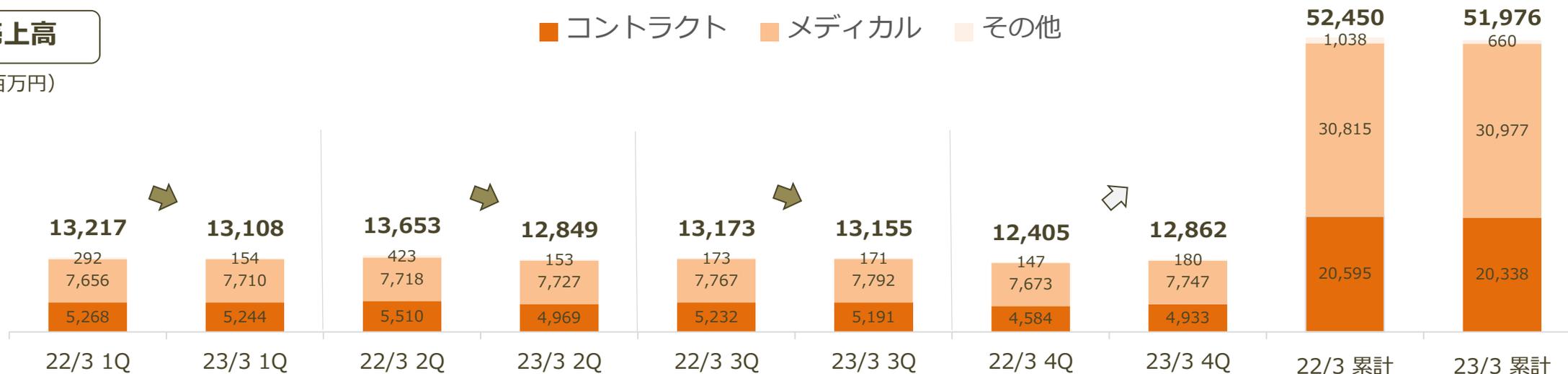
- (+) コロナ禍における運営ノウハウの習得によるコストコントロールが奏功
- (+) 赤字店舗撤退による効果
- (-) 第7-8波の影響（病床減少による売上減及び施設運営に係る労務コストの悪化）
- (-) 原材料価格の高騰
- (-) 前期2Qのスポットイベント需要の剥落

フードサービス事業 四半期推移

売上高

(百万円)

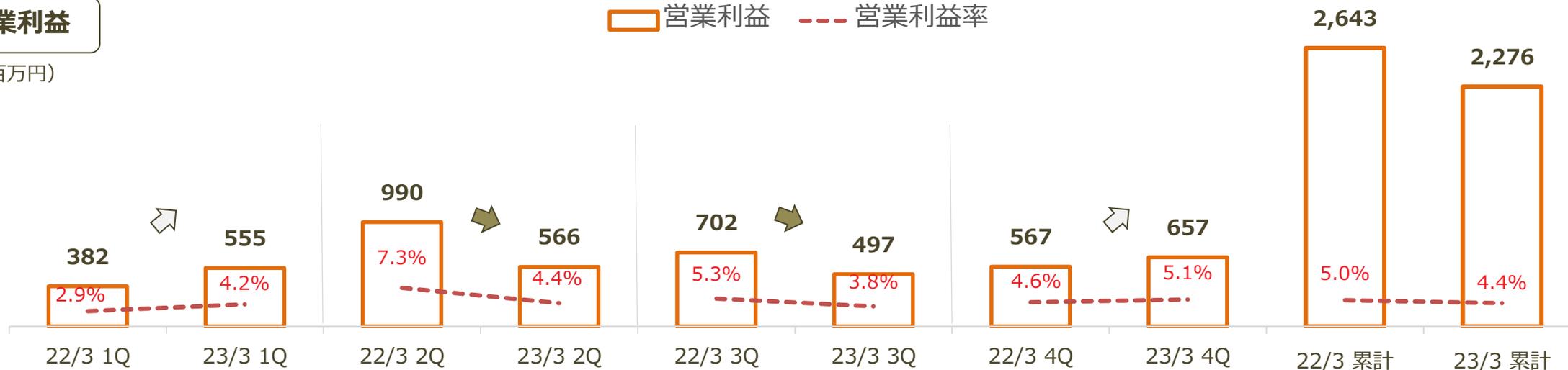
■ コントラクト ■ メディカル ■ その他



営業利益

(百万円)

□ 営業利益 --- 営業利益率



車両運行サービス事業

- 経済活動の再開により需要が大きく回復し、燃料単価上昇等のマイナス要因を吸収したことに加え、新規増車の順調な立ち上がりも寄与するなど**増収増益を達成**

(百万円)	22年3月期	23年3月期	前期比	増減
売上高	21,737	23,359	107.5%	+1,621
(役員車両)	9,576	10,177	106.3%	+601
(一般車両)	8,603	9,656	111.2%	+1,052
(旅客運送)	3,487	3,462	99.3%	▲24
(その他)	70	62	89.6%	▲7
営業利益	1,776	2,105	118.5%	+329
利益率 (%)	8.2%	9.0%	—	+0.8pt

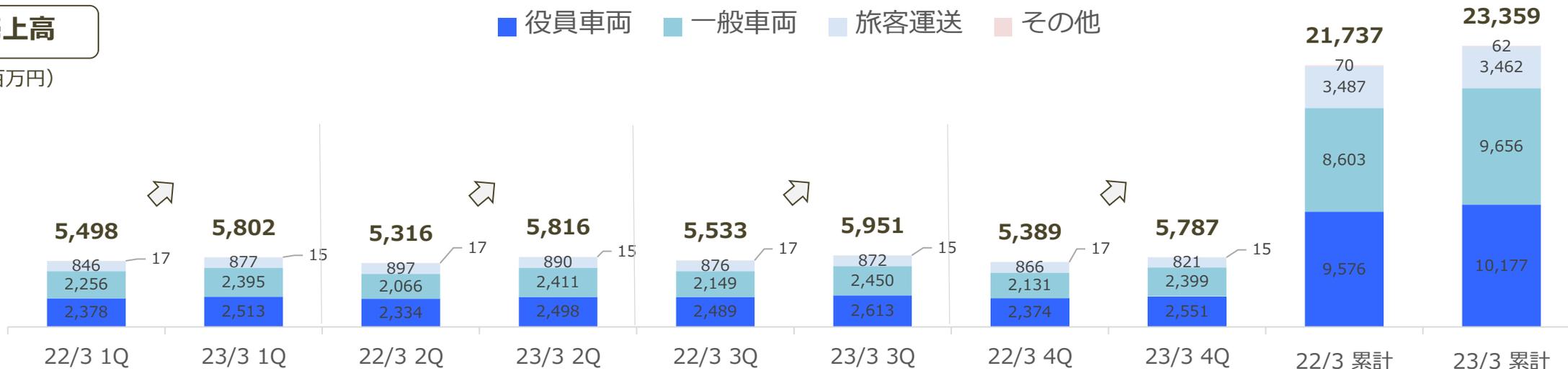
主なプラス/マイナス要因

- (+) 期首からの新規獲得台数の増加
- (+) 役員車両の時間外運行、休日運行の回復
- (+) その他売上（時間外運行、休日運行）の回復による収益性の改善
- (-) 貸切バス需要の低迷
- (-) 燃料価格高騰の影響

車両運行サービス事業 四半期推移

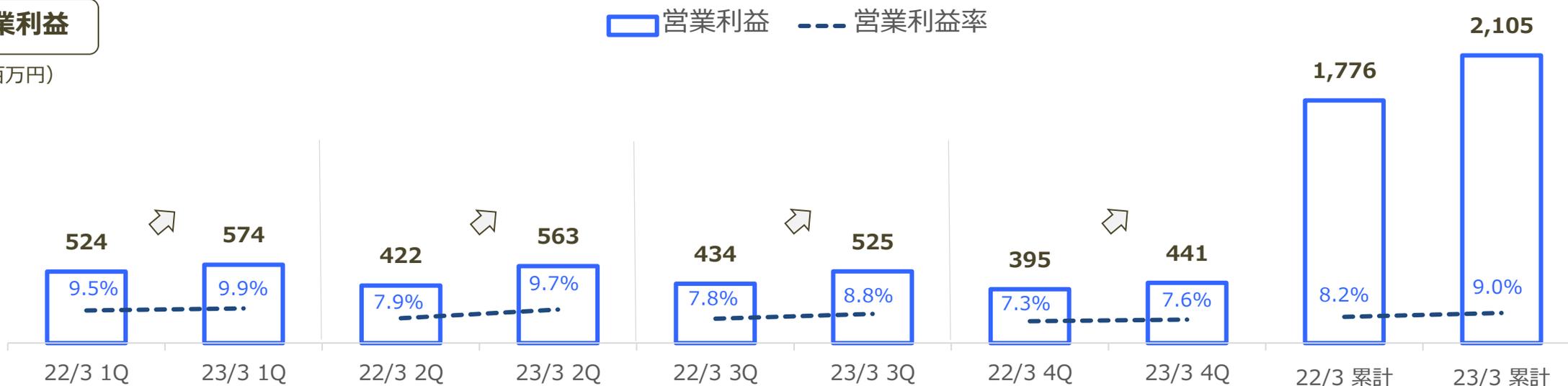
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



社会サービス事業

- 施設管理等の自治体案件の受託増加や学童保育の拡大成長に加え、コロナ関連業務の新規受託もあり、**売上高・営業利益とも二桁成長を達成**し、引き続き好調に推移

(百万円)	22年3月期	23年3月期	前期比	増減
売上高	37,344	43,231	115.8%	+5,887
(社会サービス)	10,950	13,993	127.8%	+3,042
(学童保育)	13,324	15,579	116.9%	+2,254
(学校給食)	13,010	13,612	104.6%	+601
(その他)	57	47	82.0%	▲10
営業利益	1,509	2,364	156.6%	+854
利益率 (%)	4.0%	5.5%	—	+1.4pt

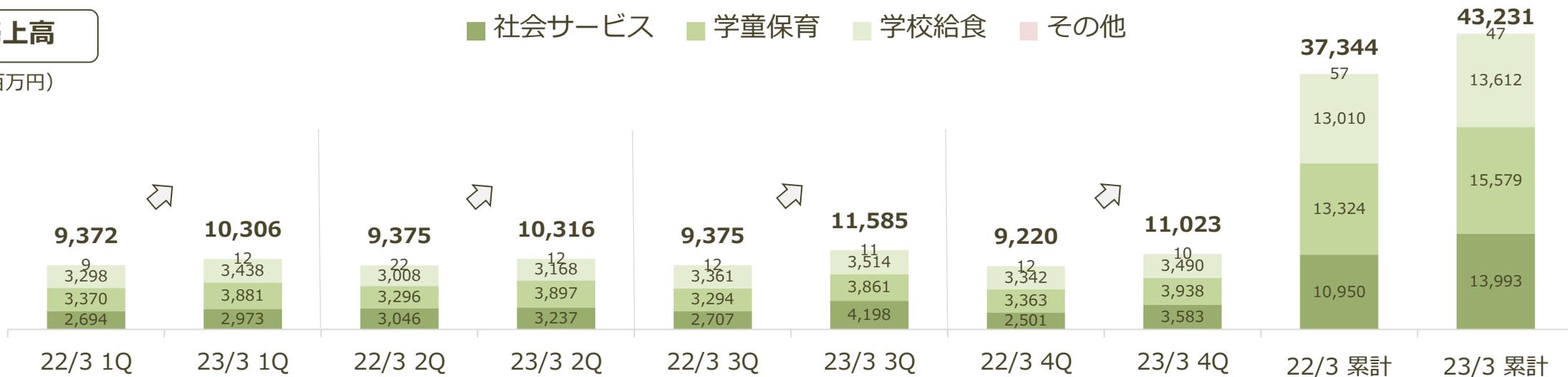
主なプラス/マイナス要因

- (+) 図書館等の施設管理数の増加
- (+) 学童保育1,570箇所へ拡大
- (+) コロナ関連業務の新規受注の増加
- (+) 観光・レジャー需要の回復
- (+) 受託施設の増加による増益効果
- (-) 最低賃金の改定、インフレの影響

社会サービス事業 四半期推移

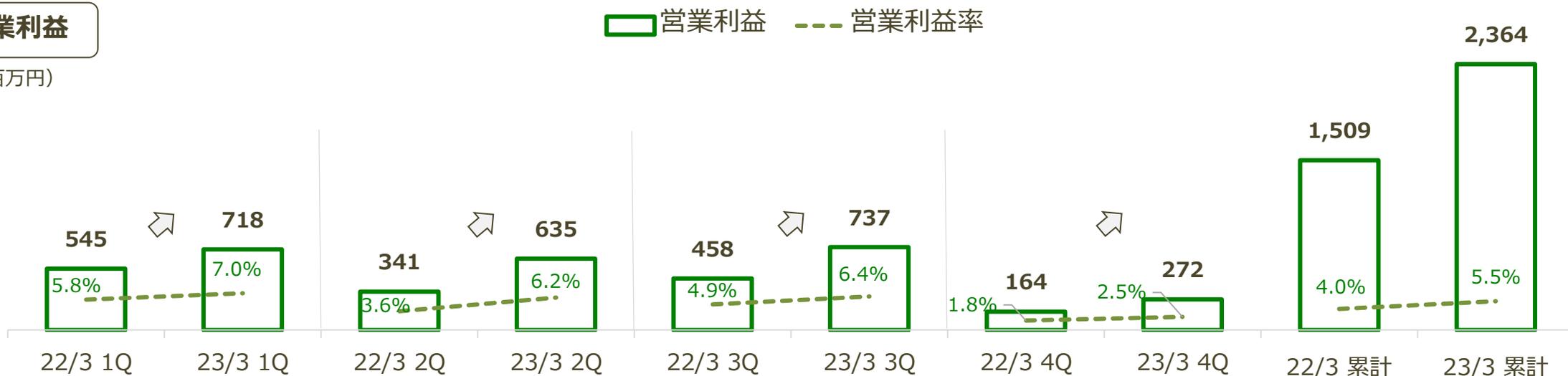
売上高

(百万円)



営業利益

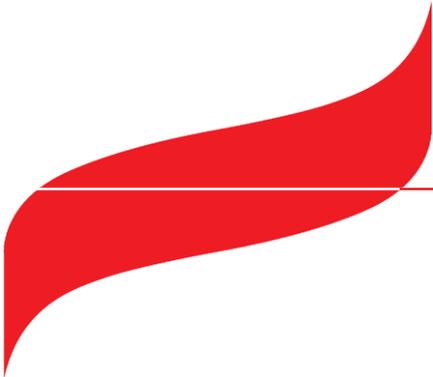
(百万円)



参考データ集

2022年3月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	第2四半期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
フードサービス事業]ト外店舗数	増加		12	2	3	2	0	2	21	2	2	3	4	0	0	32
	減少		2	3	5	6	4	7	27	2	5	5	3	12	26	80
	計	1,104	1,114	1,113	1,111	1,107	1,103	1,098	1,098	1,098	1,095	1,093	1,094	1,082	1,056	1,056
フードサービス事業 メ]ル店舗数	増加		33	2	0	7	0	1	43	3	2	0	3	2	4	57
	減少		0	0	2	1	1	2	6	0	2	1	4	5	21	39
	計	720	753	755	753	759	758	757	757	760	760	759	758	755	738	738
車両運行サービス事業 管理台数	増加		158	19	13	21	11	24	246	13	17	12	0	3	7	298
	減少		136	39	9	16	15	11	226	13	5	7	7	7	0	265
	計	3,590	3,612	3,592	3,596	3,601	3,597	3,610	3,610	3,610	3,622	3,627	3,620	3,616	3,623	3,623
社会サービス事業 管理人員	増加		895	665	740	399	494	458	3,651	148	153	50	393	174	1,327	5,896
	減少		248	209	225	203	274	385	1,544	270	254	186	303	183	1,223	3,963
	計	15,731	16,378	16,834	17,349	17,545	17,765	17,838	17,838	17,716	17,615	17,479	17,569	17,560	17,664	17,664

2023年3月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	第2四半期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
フードサービス事業]ト外店舗数	増加		13	1	3	4	2	4	27	2	0	1	4	6	5	45
	減少		8	2	1	5	7	1	24	2	3	0	3	6	31	69
	計	1,056	1,061	1,060	1,062	1,061	1,056	1,059	1,059	1,059	1,056	1,057	1,058	1,058	1,032	1,032
フードサービス事業 メ]ル店舗数	増加		31	1	0	1	2	2	37	6	2	4	2	3	3	57
	減少		0	2	1	0	0	1	4	2	8	1	1	7	19	42
	計	738	769	768	767	768	770	771	771	775	769	772	773	769	753	753
車両運行サービス事業 管理台数	増加		309	17	23	17	23	13	402	19	19	18	23	17	6	504
	減少		237	9	8	8	8	2	272	18	20	9	8	7	8	342
	計	3,623	3,695	3,703	3,718	3,727	3,742	3,753	3,753	3,754	3,753	3,762	3,777	3,787	3,785	3,785
社会サービス事業 管理人員	増加		939	351	333	983	743	337	3,686	136	149	433	63	254	1,907	6,628
	減少		222	275	234	262	336	338	1,667	196	190	317	186	174	1,669	4,399
	計	17,664	18,381	18,457	18,556	19,277	19,684	19,683	19,683	19,623	19,582	19,698	19,575	19,655	19,893	19,893

A red decorative graphic consisting of a curved, ribbon-like shape on the left side of the page, extending horizontally across the page.

2024年3月期の見通し

業績見通しの前提

- ✓ ウクライナ情勢等の世界情勢不安やインフレによる景気の下振れリスク
- ✓ 期首段階での原材料価格の高騰、期中における更なる高騰の可能性
- ✓ 高止まりしている燃料価格上昇の可能性
- ✓ 人手不足、賃金上昇による人件費の増加
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の感染症法上 5 類への移行が与える当社グループへの影響度

感染症の収束 ↔ 感染症の再拡大
ウィズコロナにおける各種需要の回復 ↔ コロナ禍におけるスポット需要の剥落

- ✓ 6月公表予定「骨太の方針2023」における異次元の少子化対策の方向性、および当社事業に及ぼす効果と即時性
- ✓ 今後の物価動向や、その他の事業リスク

先行きは景気の持ち直しが期待されるものの、依然として不透明な状況が続く見通し

連結業績予想

- 先行き不透明な事業環境を考慮して予想に織り込み、収益性（利益率）は横ばいの見通しとするも、**増収増益トレンドは持続、中計方針も堅持**

(百万円)	23年3月期 実績	24年3月期 予想	前期比	増減
売上高	121,220	124,000	102.3%	+ 2,779
営業利益 *1	4,301	4,400	102.3%	+ 98
利益率 (%)	3.5%	3.5%		
経常利益	4,188	4,400	105.1%	+ 211
親会社株主に帰属する 当期純利益*2	3,817	2,700	70.7%	▲ 1,117

*1 営業利益予想は、次スライドで増減要因の補足あり

*2 親会社株主に帰属する当期純利益の減益予想は、課税所得増加による法人税等調整額の費用計上が主な要因

連結業績予想 営業利益

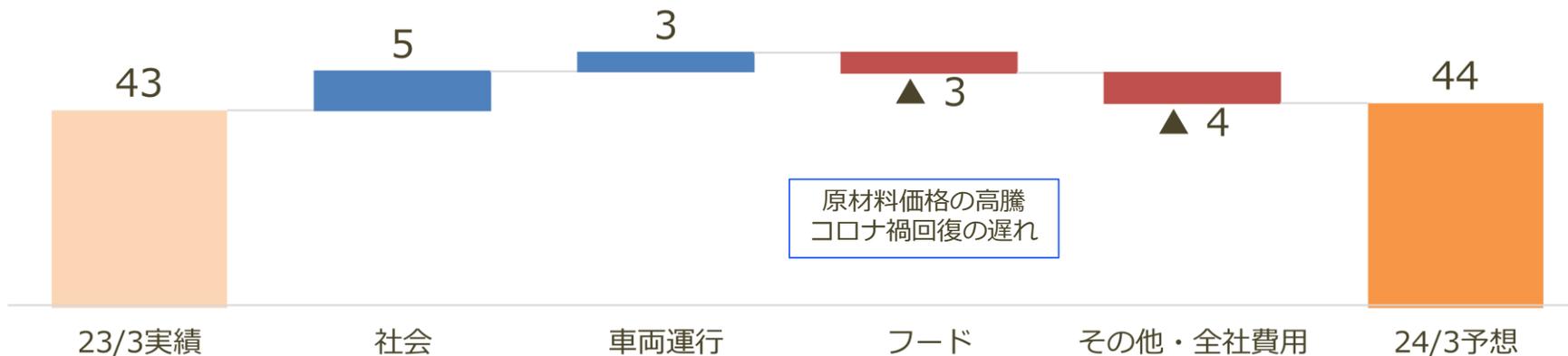
■ 要因別

(億円)



■ セグメント別

(億円)



※上記グラフ上の増減数値は管理会計上の概算値

株主還元

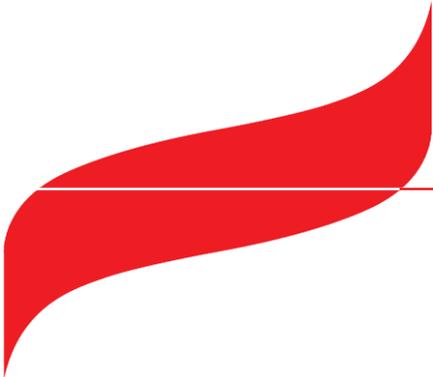
- 24年3月期の配当は、前期より2円増配の一株当たり**12円**を予想

一株当たりの配当推移 (円)



株主還元方針

配当による還元を基本として、継続的且つ利益成長に応じた安定配当を実施していく方針
→ 25年3月期までは、純資産改善の充当分を勘案し、独自基準を設け段階的に配当性向を引き上げる

A red decorative graphic consisting of a curved, ribbon-like shape on the left side of the page, extending horizontally across the page.

事業セグメント 主な取り組み

フードサービス事業

食材費・人件費上昇への対応

- 強みの現場力を活かしたコストコントロール
- 価格転嫁による吸収

新規コンセプト策定、営業力の強化

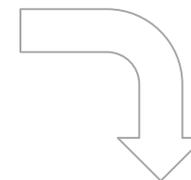
- ローコストサービス、キッチンカー事業の開発
- 健康食材、独自の運営モデル提供
- 外販商材の強化

オイシックス社との協業

- ミールキットを活用する完全調理品の商品開発
- 市場開拓による拡大



業務用ミールキット（イメージ）



完全調理品（イメージ）

車両運行サービス事業

増車獲得に向けた営業強化

- プロモーションの更なる強化によるシェア拡大
- 顧客先企業（BtoB）および自治体（BtoP）との関係性を進化

地域型の次世代交通サービスの実現

- 地域社会と連携した交通弱者の移動手段提供
- デマンドバスの積極的な提案

運転士の確保

- 運転士不足の解消へ、運転士採用の更なる強化
- 2024年問題への対応



役員車両



デマンドバス

トップシェアを不動のものとし、断トツのNo.1を目指す

社会サービス事業

施設の利便性と運営効率の向上

- アプリ開発やロボット開発による業務の自動化などを実施
→ 図書館アプリの導入や施設の受付電子化
- 道の駅事業に注力、粗利率の改善



福島県相馬市「道の駅そうま」



給食センター式の受託強化

- 戦略的な営業活動体制の構築
- 営業人員のスキル向上、提案書のモジュール化など



岡山県玉野市立学校給食センター

社会サービス事業

学童保育No.1プレイヤーとして培った知見を活かして、こども周辺領域へ進出

学童保育の圧倒的No.1プレイヤー

- ・ **1,570**クラス運営
- ・ 運営スタッフ約**12,000**人
- ・ 約**180**自治体との取引
- ・ **15**年以上の運営実績



①保育ノウハウの横展開

放課後デイサービスへの進出

- ・ 発達障がいの急増で急拡大する放課後デイサービスへの参入
- ・ 学童保育の知見を活かした、質の高いサービスによる差別化

②自治体とのパイプ活用

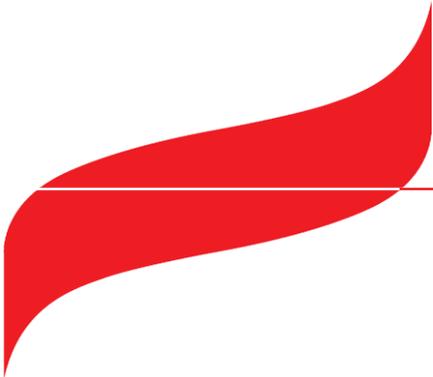
BtoPこども関連施設の受託拡大

- ・ 児童館、子育て支援拠点等のこども関連施設の受託拡大
- ・ 多くの自治体とのパイプ、こども領域における圧倒的な実績を武器とした新規受託

③15年以上蓄積した学童保育運営のベストプラクティス

学童保育のプラットフォーム化

- ・ 質の高い運営を可能とする学童保育に特化した業務アプリ開発 → 保護者向けICT
- ・ 業務アプリの外販によるプラットフォームへ

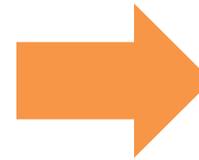


APPENDIX ~ESG・SDGs 推進活動~

ESG・SDGs 推進活動

17の開発目標

企業が追求すべき社会性は、SDGsとして17の開発目標が示されていますが、当社の事業領域は社会性が高い上に、多くの社員・顧客・パートナー企業を抱える企業形態のため、他社と比べても能動的に取り組める目標が多くあります。



取り組み実績のご紹介①

～ フードサービス事業 ～

2023年1月に一般社団法人セイラーズフォーザシー日本支局が認定する「ブルーシーフードパートナー」に加盟しました。

ブルーシーフードとは、カツオやカレイなど、資源量が比較的豊富で、生態系を守りつつ、管理体制の整った漁業により漁獲されている持続可能な水産物のことで、今後、社員食堂、病院、保育園・幼稚園等食事提供業務を受託する約1,800カ所で提供するメニューに、ブルーシーフードを積極的に取り入れていきます。



ブルーシーフード（イメージ）

～ フードサービス事業 ～

2022年12月より、全国で食事提供業務を受託運営する保育園・幼稚園約190カ所にて、大豆ミートを使用した「彩りメニュー」の提供を開始しました。

大豆ミートは、畜産業が環境に与える影響の軽減や、健康志向、動物愛護の観点からも注目されているに植物由来の材料で作った代替肉です。

「彩りメニュー」は、料理の見た目や食に対する豊かさを表現し、五感と想像力を育むことをコンセプトにしたSFのオリジナルメニューで、食育活動にも活かしています。



大豆ミートを使用した
彩りメニュー（イメージ）

取り組み実績のご紹介②

～ 車両運行サービス事業 ～

東京都内で契約する従業員送迎バス、スクールバスに、水素を活用した次世代型燃料電池バス計5台を追加導入し、2023年3月より順次運行を開始しました。なお、スクールバスに燃料電池バスを導入・運行するのは2023年3月現在で国内初の試みとなります。

この追加導入で、1台あたり年間約20トン、計5台で年間約100トンのCO2削減（日本人50人あたりの年間CO2排出量に相当）および環境負荷の低減につなげました。



次世代型燃料電池バス

～ 車両運行サービス事業 ～

2022年12月に東京都江東区と、さらに翌2023年3月には千葉県南房総市と災害時協力協定を締結しました。

いずれも、地域内で自然災害等による有事が発生した（および発生のおそれがある）場合、江東区内では保有する車両を、南房総市では市より運行を受託するスクールバスを緊急車両とし、避難所への住民の移送、緊急物資の移送等を行います。



保有するバス車両



スクールバス

取り組み実績のご紹介③

～ 社会サービス事業 ～

2022年12月25日（日）より、千葉県香取市に新設された複合施設「みんなの賑わい交流拠点コンパス（KOMPAS）」の施設運営を受託しました。

図書館、子育て世代支援スペース、貸出施設、ホール等さまざまな機能が備わった複合施設で、SDHが全国各地の複合施設培ってきたノウハウを活かし、運営にあたっています。

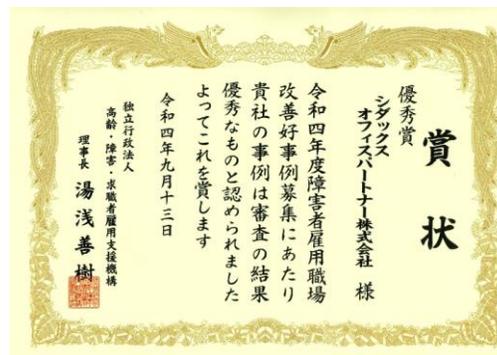


みんなの賑わい交流拠点コンパス（KOMPAS）

～ 障がい雇用改善好事例で表彰～

当社グループの特例子会社シダックスオフィスパートナー株式会社は、2022年9月に「令和4年度 障害者雇用職場改善好事例募集」（主催：独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構、後援：厚生労働省）において、優秀賞を受賞しました。

精神障がいや発達障がいのある従業員の障がい特性等から生じる問題を分析し、レベル別に支援に取り組む活動を実施。従業員全体で問題点を可視化しながら解決する改善事例を提出。この点が高く評価されました。



優秀賞賞状



表彰式の様子

免責事項

- 本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、シダックスグループの財務情報および経営情報の提供を目的としたもので、当社が発行する株式の購入、売却および投資アドバイスを目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の責任、判断のもとになされますようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている事項には、当社に関する将来予測や業績予測が記述されていますが、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、異なる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料に掲載されている事項または、本資料を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。また、予告なしに情報の掲載中止や変更を行うことがあります。

SHIDAX 

未来の子供たちのために